

研究専攻（専門領域）		日本・アジア研究専攻		学籍番号	06CS019
氏名	吉開 和子	ローマ字	Yoshikai Kazuko	国籍 (留学生)	
修士学位 論文名 特定課題研究名	『とはずがたり』における『蜻蛉日記』の享受 －「妻の日記」と「女房の日記」を貫くもの－				
提出年月日	2008 年 2 月 19 日		指導教員	武井 和人	
体裁 (論文)	47 頁(1 頁文字数 1600 字)		言語	日本語	
別冊添付資料等					
キーワード	まがまがし、おもだたし、しらじらし、ことなし、うらなし				
<p>『蜻蛉日記』と『とはずがたり』、ともに男女間の愛情を事由に表現された日記を代表する作品である。『とはずがたり』の作者二条が、作品を創造するにあたって『蜻蛉日記』から得たものとはなにか、形容詞を手がかりに考察する。</p> <p>構成および内容は以下のとおりである。第一章「女流日記における形容詞」第一節「中古・中世の女流日記作品における形容詞の概観」では、16 作品すべてに用いられている形容詞を形容詞語彙表に基づき抽出(おほし、かなし、ちかし、なし、ふかし、をかし)。これら 6 語は物語でも使用され、現代でも使用の基本語であると示した。次に、16 作品の使用頻度 20 位までの形容詞を調査し、16 作品共通の形容詞(上述の 6 語)は、使用頻度も高いことを示した。使用上位 13 語のうち情意性形容詞を抽出(をかし、かなし、めでたし、おもしろし、あやし、うし) 陰・陽両極の心情が日記作品形成の原動力となりうる可能性を示した。第二節『蜻蛉日記』と『とはずがたり』における形容詞概観」では、使用頻度 30 位までの形容詞を調査、その結果、両作品に暗鬱な否定語が多いことを示し、例として「うし、つらし、つれなし、こころ+形容詞、をかし」の作品中での使われ方を示した。第二章「特徴的な形容詞の考察」第一節『蜻蛉』と『とはず』における特徴的な形容詞」では、16 作品に用例がないか、希少の語を調査し、5 つの形容詞を抽出〔二節～六節までの語〕これらの形容詞が表わす作者の意識を本文の叙述内容にそって検討した。第二節「まがまがしに関わる考察」では、語の使い分けを指摘〔「忌むほどに」の意で「ゆゆし・いまいまし」を使用〕その理由として、「忌むべき度合い」の強弱、身辺雑事ならぬ特筆すべき出来事の場合に使用したとの考えを示した。第三節「おもだたしに関わる考察」では、対象の様子が非常に優れていたため用いた語で、尊敬・賞賛のほかに美的・優秀のニュアンスも含む語として用いたのではないかと考えた。第四節「しらじらしに関わる考察」では、明確な不快感の表白ではないが、不調和感を覚えたために用いた語であるとした。第五節「ことなしに関わる考察」では、「こと」は特定の行為、それを漠然とさすときに用いられていることを示した。第六節「うらなしに関わる考察」では、私(作者)こそ、相手(道綱母は夫兼家、二条は後深草院)と心底を披瀝するほどの関係であり、もしくは、そうありたいとの強い思いから用いられたものと推断した。</p> <p>以上、文脈にそって読みの試みを行った。そこから見えてくるものは、次のとおり。</p> <p>5 つの特徴的な形容詞で描かれるのは、夫兼家、後深草院との関係であり、その関係から生まれる葛藤である。兼家や院以外の人物が描かれる場合でも、背後には彼らの姿がある。『とはずがたり』が『蜻蛉日記』から得たものとはなにか。それは、「描出の仕方」－作者二条を最も意識させた男に対する描出の仕方だったのではないだろうか。</p>					